

1 研究所の運営

時代の要請や教育動向をとらえ、教職員の資質向上をめざした研修活動や情報発信を通して、釧路管内の教育振興に寄与していく。

(1) 組織構成～所長、副所長2名、事務局長、事務員、所員12名(釧路管内7町村より選出)

(2) 所員研修

①各部会所員研修会(年間11回) ②釧路管内夏季所員研修会(7月30日)

③各研修会への参加～道研連(所員研、研究大会)、道東所員研 等

(3) 各部の主な活動

①授業研究部～学習指導に関する研究 ・研究協力校との連携 ・研究紀要発行

②調査研究部～研究主題に係る調査研究 ・釧路管内学校教育研究大会の運営 ・広報

2 研究・講座への取組

研究主題【自ら描く】学び～自己調整学習サイクルを意識した単元計画の改善(2/2年次)

①授業研究～学びのサイクルを活かし、内発的動機づけにつなげる単元計画の工夫と、学習状況に応じて、子どもが学び方をデザインできる授業形態の工夫に焦点を当てて実践を積み上げ、情報発信していく。

②調査研究～「自己調整学習」等、研究主題に関する情報を収集・整理し、所報やWeb等を通して各学校へ情報提供していく。

3 今年度の研究所運営の重点⇒情報の発信強化

①管内の研修活動等に関する情報の発信源としての機能促進(所報、SNS)

・各学校の研究主題一覧紹介 ・授業改革に関する教員の意識調査 等

②管内規模の所員研修会・研究大会

・管内教育研究所員夏季研修会の開催 ・管内学校教育研究大会の開催(参集型)

③研究協力校との連携強化～各校の授業公開と釧研の研究との関連を発信

④SNSの積極的活用～SNS運用方針を策定中⇒Instagramの活用を視野に

⑤所員の視察研修

・網走市立白鳥台小学校公開研究会(単元内自由進度学習)に参加～10月11日

⑥道東地区教育研究所所員研修会の運営協力～8月27日 情報交換会を主管

⑦R8道研連研究発表大会釧路大会の開催に向けて準備開始

【釧路町立教育研究所 令和6年度事業計画】

(1) 運営方針

釧路町内の教育に関する実態を的確にとらえ、これに即応する教育理論と実践についての研究を推進し、教職の専門性の充実と使命感の確立に努め、児童・生徒の豊かな人間性の育成を目指して町内教育の発展・充実に努める

(2) 運営の重点

① 地域や児童・生徒の実態に即応する教育理論と実践研究

- 教育研究活動の活性化と研究成果の交流を積極的に図る。
- 教育の振興を図るための基礎資料の調査研究・資料の作成に努める。
- 所員研修を充実させ、他の研究所との交流を図る。
- 複式教育の充実を目指す研究の推進に努める。

② 教育現場における研究実践にこたえられる部会研究の推進

③ 町内教育活動の振興、充実を目指す広報活動

④ 町内教育関係機関との連携及び研究の交流

(3) 具体的な施策の概要

① 事務局

○研究所の円滑な運営を図るための企画と調整に努める。

- ・事務局・研究所所管事業の推進会議の開催
- ・各部門相互の運営に関する連絡・調整及び会計事務
- ・町理事者・町教育委員会との連携
- ・町研諮問委員会との連携並びに資料の提示
- ・小中交流会、教務担当者会議等の連絡調整
- ・教育関係機関との連携

② 研究部

○町内の教育活動を通して、教職の専門性の向上と使命感の確立を目指すための研究をする。

- ・各教科等の授業研究の充実
- ・各教科、領域部会等の研究推進
- ・所員及び各校の資質向上を図るための理論と実践にかかわる研究の推進、研究成果の還元
- ・他教育研究所との交流（道東地区所員研修会等）
- ・複式教育の充実を目指す研究の推進
- ・管内複式校との連携と研究体制の確立

③ 調査部

○町内各校の研究交流を深める調査と還元、教育資料等の提供。

- ・町内の地域教材・実践などの収集・提供

○「くしろ町」の編集作業（隔年）

④ 広報部

○研究所の活動内容や各部会及び各学校における研究活動状況などの広報活動にあたる。

- ・研究所だより『所報』の発行
- ・『研究紀要』の発行
- ・先進校の研究報告や教育に関わる情報の収集
- ・町教委研究指定校の研究内容の紹介

⑤ 複式教育部

○町内へき地複式教育研究の推進及び、複式校の連絡を密にし、複式教育向上のための実践交流を図る。

- ・ 町内複式2校による授業交流会の開催
- ・ 町内へき地複式教育研究の推進を図る。
- ・ 体力を向上させ、社会性を育てる集合学習の実践
- ・ 釧路へき地複式教育研究連盟との連携
- ・ 管内及び全道へき地複式教育の交流

【研究内容の概要】

研究主題（3年計画1年次）

『社会で生きる力』を育む釧路町の教育

～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～

■ 1年次（令和6年度）

（1）前年度までの評価・反省を受けての課題の明確化や研究の修正

（2）「社会で生きる力」の育成を目指した「主体的・対話的で深い学び」の研究

① 主体的な学び

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び

② 対話的な学び

子どもどうしの協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えることなどを通じ、自己の考えを広げ深める学び

③ 深い学び

習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出し、解決策を考えたり、思いや考えを基に、想像したりすることに向かう学び

（3）各部会における研究授業の実施及び検証

【部会構成】

○**教科部会**については以下を設定し、年度当初に希望を集約、人数が極端に少ない場合や構成員が管理職に偏った場合を除き、設置し研究活動を行なっている。今年度は全15部会を開設し、年5回実施予定。

国語 社会 算数・数学 理科 英語・外国語活動 音楽 図工・美術 技術・家庭 体育 生活
保健養護 道徳 特別活動 特別支援 学校事務

※令和6年度は、総合的な学習は未設置。

○**小中地域連携部会**については、富原地区、遠矢地区、別保地区、沿岸地区の4地区において、地域ごとに小・中学校が連携して課題を設定、研究活動を進めている。年3回実施。

【事業実践上の課題】

◎児童・生徒数の減少に伴う、教職員の定数削減に応じた部会数の調整

◎部会を、教科部会として開設するか、または領域部会として開設するか

◎義務教育学校等への移行を見通した、小中連携部会の充実

◎ICT 特別委員会の充実

（全国教員研修プラットフォームの実施、デジタル教科書の効果的な活用等に向けた主導的役割の充実）

令和6年度道東地区教育研究所所員研修会 所長部会交流資料

厚岸町教育研究所 所長 福田英明（厚岸町立真龍中学校校長）

1 研究所の組織・運営

(1) 運営方針

厚岸町の教育目標の具現化を期し、地域、保護者、地域住民の期待と信頼に応え、児童生徒の豊かな成長を目指す実践と研究に努める。

(2) 所員構成

所長 1、副所長 1、事務局 3、所員 6 名の計 11 名

2 令和6年度事業・研究の概要

(1) 研究主題

地域・社会に生きてはたらく力を育む厚岸町の教育
～育成を目指す資質・能力を明確にした授業改革～ (3年計画1年次)

(2) 部会構成と研究内容

- ・学力向上部会第1部会：「主体的・対話的で深い学び」、学習評価についての研究
- ・学力向上部会第2部会：ICT教育、プログラミング教育についての研究
- ・体力向上健康分科会：児童生徒の体力向上に係る研究（町の児童生徒における健康面の課題をもとに、その改善に向けた取り組みを通して得られた成果を各学校の実践に生かすことなど）
- ・体力向上体力分科会：児童生徒の体力向上に係る研究（町の児童生徒における体力面の課題をもとに、その改善に向けた取り組みを通して得られた成果を各学校の実践に生かすことなど）
- ・心の教育部会：特別な教科道徳の授業研究を中心に研究
望ましい指導生徒指導のあり方について実践交流
- ・外国語活動・外国語部会：外国語活動充実に係る研究。（小中連携を視野に入れた外語活動の授業や指導方法の改善など）
- ・特別支援教育部会：児童生徒個々の教育的ニーズに応じた支援のあり方や、学校間交流及び共同学習の推進について研究
- ・事務部会：学校運営を円滑にするための事務職員の業務のあり方について実務面での研究や実践交流

3 研究課題及び推進の重点

(1) 研究課題 ※厚岸町教育行政方針における重点から

- ①社会の変化に主体的に対応するための基礎的・基本的な知識・技能の定着、および思考力、判断力、表現力等を育む。（確かな学力の育成）
- ②夢や目標に向かって主体的に考え判断し行動するたくましい心と、人や社会と協調して共に生きるしなやかな心を育む。（豊かな心の育成）
- ③生涯にわたって、豊かで充実した社会生活を送るための土台となる健康な体を育む。（健康な体の育成）
- ④児童生徒一人ひとりが、等しく生き生きと学ぶことができる環境を整える。（教育環境の整備）

(2) 推進の重点

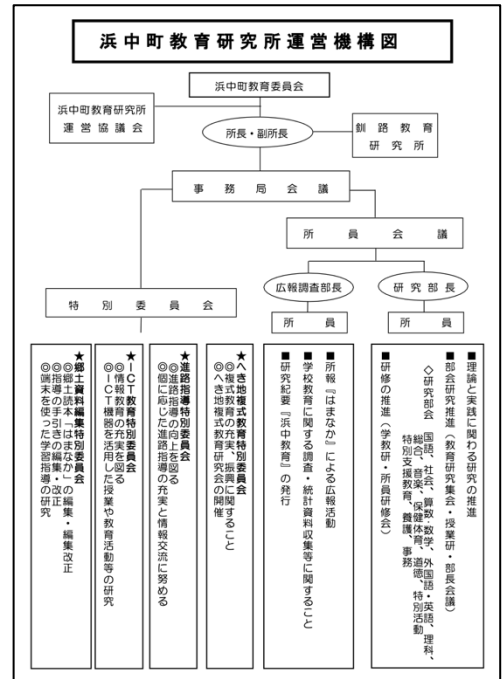
- ①今年度の研究は単年度計画である。今後の厚岸町における研究・実践の土台を形成するとともに、成果と課題を参加者とともに協議することで、厚岸町の教職員の力量向上を図る。
- ②各部会では「育成を目指す資質・能力」を明確にした研究テーマを設定し、授業研究を中心とした部会研究を進める。
- ③教職員の研修の機会を充実するとともに、研修内容の還流を図る。
- ④各種研究会及び教育関係機関との連携により、資料収集と保管、整理に努める。
- ⑤実践資料集を含めた「厚岸の教育」の発刊を行う。

4 事業実践上の課題

- 教科ごとの部会から部会構成を変更し2年目となる。その成果と課題を検証していく。
- 町外での各種研究会等へ先生方を派遣し、多くの還流を図る。

1 研究所の組織・運営について

- ① 運営方針
 - (1) 地域住民の信頼に応える公教育の実現をめざした実践研究の推進に努める。
 - (2) 学校教育及び社会教育にかかる調査研究に努め、浜中町教育の向上を図る。
 - (3) 各研究機関及び教育関係団体との連携交流を図り、教育研究活動の推進に努める。
- ② 重点目標（抜粋）
 - (1) 浜中町教育の基本理念 「ふるさと浜中に生き豊かなまちを拓き創造する人づくり」の実現に資する実践と研究に努める。
 - (2) 研究主題に基づく実践交流を推進し、知・徳・体調和のとれた「生きる力」を育む浜中町教育の向上を目指す。
 - (3) 浜中町教育の振興に役立つ調査研究の推進と、教育資料の収集及びその活用を図り実践の成果を研究集録として発行をする。



2 令和6年度事業計画の概要

- ① 事務局 : ○事務局会議・運営協議会（年2回） ○所員会議（年7回）
- ② 研究部 : ○全体集会（年2回 5・2月：講演会実施）
○一斉研究日（年3回6・7・9月）○研究部会（年7回）
○部長会議（年2回） ○道東所員研修参加
- ③ 広報・調査部 : ○「浜中の教育」編集・発行 ○所報発行（年4回）

3 研究課題及び研究の取組の概要

- ① 基本方針：浜中町教育の充実・発展を目指し、今日的課題についての理論と実践研究を目指し教職の専門性の向上に努める。
- ② 研究課題：『教師と子どもがともに高まる浜中町教育の創造』
- ③ 研究主題
 - (1) 教科部会共通研究主題：「子どもが『自ら学ぶ力』を育む授業を目指して」
～指導と評価の一体化をもとにした学習過程の構築～
 - (2) 教科外部会共通研究主題：「子どもが『自ら学ぶ力』を育む指導を目指して」
- ④ 部会構成（14部会）
 （教科・領域部会）国語，社会，算数・数学，理科，生活，総合的な学習，保健体育，音楽，外国語・英語，道徳，特別活動 （教科外部会）特別支援，養護，事務

4 事業実践上の課題

- ① 令和7年度の組織改変に向け、取り組みを進めている。その方向性として、浜中町にして各部会が今日的課題を解決するにあたり、その最良の組織は何か、模索が続いている。
- ② 令和7年度以降は、より良い町研組織にするため、見直しにも着手する。
- ③ 今年度は、14部会を編成することができたが、最小で3名の部会もあるなど、部会の教員数減少に伴い、実践や意見の交流が十分に行えないことが課題となっている。

研究所名 弟子屈町教育研究所

所長名 大山道弘（弟子屈町立和琴小学校校長）

1 研究所の組織・運営 について

弟子屈町立小・中学校の実態把握、指導内容や指導方法の実践的研究及び資料の収集と各校への情報提供を行い、弟子屈町学校教育の振興と発展に寄与することを目的に、事業部、研究部、広報部、研究部会及び特別委員会で構成される。

（1）運営方針

- ①運営協議会の意向を尊重し事業を進める中で、町内学校教育の充実と発展に努める。
- ②地域の実態に即した教育研究を推進するために、教育関係の基礎資料の調査研究に努める。
- ③町内研究活動を充実し、研究成果の交流を図るために町研共同研究協力校での研究を推進する。
- ④部会研究の充実を図り、各校の校内研修の推進へ寄与する。
- ⑤複式教育の充実と振興を目指す研究の推進に努める。
- ⑥所員としての資質向上のために所員研修を充実させる。
- ⑦教育関係、他団体との連携と研究の交流を図る。
- ⑧教育情勢の動向を把握し、各校研修推進のための情報提供の充実を図る。

（2）部会構成

- 外国語 ○道德教育 ○特別支援教育 ○国語 ○理科
○算数・数学 ○特別活動 ○養護 ○事務

2 令和6年度事業計画の概要

- 教育研究大会・・・2回
- 教育研究部会・・・5回
- 所員会議・・・8回
- 特別委員会
・へき地複式連絡協議会 ・ましゅうランド実行委員会 ・ICT 特別委員会

3 研究課題および研究の取組の概要

『自然豊かな大地の中で、生き生きと学ぶ 弟子屈っ子の育成』を研究主題とし、恵まれた弟子屈町の教育環境を生かし、地域に根ざす教育の展開に資する活動を行っている。

この主題を具現化するために、①各教科等における確かな学力を育む教育の充実、②豊かな人間性や社会性を育む心の教育の充実、③健康で安全な生活の基礎となる生活習慣の定着を図る教育の充実、④地域を生かし、ふるさとを愛する心を育む教育の充実に取り組んでいる。

4 事業実践上の課題

- 研究協力校の公開研への参加者を増やす手立て
- 研究部会での活動内容の精査
- 教職員の移動に時間がかかり、実活動時間が短い
- 今年度から、事務局長と事務局次長（会計）を教諭から教頭にしたことによる負担軽減とスムーズな運営への評価検証

令和6年度道東地区教育研究所所員研修会 所長部会交流資料
白糠町教育研究所の事業・取組について

1 研究所の組織・運営

(1) 運営方針

白糠町の教育に関する課題を的確にとらえ、課題解決に向け、教育理論と実践についての研究を推進し、教職の専門性と使命感の確立に努めるとともに、児童生徒の豊かな人間性の育成をめざす教育の発展・充実に努める。

(2) 所員構成

所長 1、副所長 2、事務局 3、研究部 3 の計 9 名

2 令和6年度事業・研究の概要

(1) 研究テーマ（令和5～7年度の3ヶ年）

一人一人が未来を切り拓き、活躍できる白糠っ子の育成
～育成を目指す資質・能力を明確にした授業・実践の改善を通して～

(2) 研究部会の設置・構成

- ・教科の枠組みを超えた白糠町の課題を追究する「課題別部会」を設定し、町内の全教職員が参画することで、実践力の向上につなげていく。
- ・町及び各学校における CRT、I - check、新体力テストの結果を踏まえ、児童生徒に身に付けさせたい力について各部会で目標を立て、課題解決に向けた実践を推進する。
- ・令和6年度は、「学力向上」「心の教育」「体力向上」「特別支援教育」「ふるさと学習」「養護」「事務」の7部会で構成。年間4回の部会研究日において町内教職員が合同し、授業研究や実践交流を行う。

(3) 研究指定校

- ・町内の2校を指定。期間は2ヶ年とする。指定2年目の学校は公開研究会を開催し、町内教職員が参加するものとする。

(4) 広報活動

- ・所報、研究紀要の発行、データ共有ツールを活用した教育実践資料の提供等

(5) 赴任者町内視察研修

- ・町へ新たに赴任した教職員等を対象に、町内の史跡や施設などの視察研修を実施

(6) 各種研究大会等への参加

- ・釧路管内教育研究所所員研修会、釧路管内学校教育研究大会、道東地区所教育研究所所員研修会、道へき地複式教育研究大会等

3 実践上の成果・課題

- 「課題別部会」を編成してから4年が経ち、各研究部会がそれぞれの教育課題と目指す児童生徒の姿を共有しながら、授業交流や学習会などを行い、課題を解決するための実践方法を精力的に見出している。
- 各種調査の結果から、児童生徒の学力や体力、心の状況等について、課題点が浮き彫りになってきており、部会研究においては、今後もさらに町全体の教育課題の解決に向けた検討や授業づくりを中核に据えて取り組んでいく必要がある。
- 各学校や各部会の実践の成果を日常的に活用できるようにするために、教育研究所としてさらに積極的に情報発信、情報共有を進めていく必要がある。